

特定医療法人 南山会 広報誌 おあしす

oasis

2026

秋

468号



〃

特定医療法人南山会 理事長
峡西病院 院長

川崎 洋介

理事長インタビュー

リニューアル創刊号

知られざる南山会の魅力
「看護部」

南山会 最新トピックス
職員御用達！ごはん探訪
Treasure Box 作品募集！

峡西病院・峡西老人保健センター・きづな・アルプス訪問看護ステーション

—— 1987年に生まれた広報誌「おあしす」が、装いも新たに生まれ変わりました。毎月発行から季刊（年4回）へと形を変えての再出発です。このリニューアルにこめた想いを、特定医療法人南山会理事長・峡西病院院長の川崎洋介に聞きました。



40年の想いを、

これからの地域へ。

特定医療法人南山会 理事長
峡西病院 院長

川崎 洋介

リニューアル創刊号理事長インタビュー 患者さんとの心の交流から、地域とともに歩むコミュニケーションツールへ

「おあしす」は、患者さんとの心の交流から始まった

——まず、「おあしす」の歴史から教えてください。

「おあしす」が生まれたのは1987年、今から40年近く前のことです。当時、精神科病院が広報誌を発行するというのは、とても珍しいことでした。創設者である望月正迪が、新聞というかたちを通じて、入院されている患者さんたちと心の交流を持ちたいという想いから始めたと言われています。

創刊号を読み返すと、患者さんとの合唱や、庭で子どもたちと蛙を捕まえた話など、本当にささやかな日常が綴られています。数字や実績を並べる広報誌ではなく、「そこに暮らす人たちの温度」を伝えるための新聞だったんですね。この原点は、40年近く経った今も、私たちが大切にしているものです。

——長く「患者さんとご家族」に向けた新聞だったんですね。

そうです。ここが今回のリニューアルの一番のポイントなんです。これまでの「おあしす」は、基本的に病院から患者さんやご家族への、いわば一方通行の情報発信でした。もちろんそれ自体、とても価値のあることです。ただ、これから先の「おあしす」には、

もう一つの役割を持たせたいと考えました。それが「地域」です。

「二方通行」から「双方向」へ

——地域に向けた発信、というのは具体的にどういうことでしょうか。

私たちはここ数年、「広報戦略は経営戦略である」という考え方のもとで、法人全体の広報のあり方を見直してきました。日本広報学会は広報を「多様なステークホルダーとの双方向コミュニケーションによって、社会的に望ましい関係を構築・維持する経営機能」と定義しています。つまり広報とは、一方向的な宣伝ではなく、「関係づくり」そのものだということです。

これまでの「おあしす」やホームページは、正直に言うところ一方通行でした。私たちが伝えたいことを、伝えたいタイミングで発信する。でも本当に大切なのは、患者さんやご家族、地域の方たちが「知りたい」と思っている情報が、ちゃんと届いているかどうかなんです。そこに気づいたときに、「おあしす」も一方通行の新聞から、地域との関係を育てて



いく「コミュニケーションツールへと役割を広げるべきだと思っただけです。」

——「ファンづくり」という言葉も、法人の中でよく使われていますね。

はい。広報の目的を一言で言うなら、「ファンづくり」だと考えています。ファンというのは、こちらが一方的に「良い病院です」とアピールして生まれるものではありません。私たちの想いや日々の活動を知っていただき、「なんだかこの病院、いいな」「応援したいな」と思っていたら、その積み重ねの先にファンが生まれます。

「おあしす」も同じです。季刊化すること、一つひとつの記事によりしっかりと向き合い、私たちの想いや取り組みを、より深く、より丁寧に伝えられるようにしたい。毎月の速報性よりも、地域の皆さんとの関係を長い目で育てていく媒体に育てたいと考えています。

精神科病院のイメージを変えたい

——なぜ、「ここまで広報に力を入れるのでしょうか。」

精神科病院には、今も「怖い」「暗い」「行きたくない」といったイメージがついて回ります。強制入院や隔離拘束、閉鎖病棟といった、精神保健福祉法のもとで行う医療の特殊性もあり、世の中の精神科病院に対するイメージは、「治療」ではなく「治安」に近いものになってしまっている。これは長年、医療界全体が抱えてきた課題です。

私たちは、このイメージを変えたいと本気

で思っています。ただ、自分たちで「私たちは良い活動をしています」といくら宣伝しても、世の中はなかなか興味を持ってくれない。だからこそ、プレスリリースやコラムなど、第三者の視点を通じて発信する取り組みも並行して進めてきました。そして「おあしす」は、その中でも一番、地域の皆さんに直接、私たちの「顔」や「想い」を届けられる媒体だと思っています。

——実際に、地域からの反応も変わってきているとか。

ありがたいことに、「新聞見ました」「良い病院ですね」「通院していることを家族に自慢しちゃいました」といった声をいただくようになりました。これは職員にとっても、本当に大きな意味を持ちます。実際、職員サーベイでも「やりがいの源」として「人の役に立つこと、人から必要とされること」と答える割合が、この数年で大きく増えました。

想いを知ってもらうこと、それが伝わって初めて、地域から愛される存在になれる。そして地域から愛される存在になったと実感できることが、そこで働く一人ひとりの誇りややりがいにつながっていく。「おあしす」のリニューアルも、この循環をより確かなものにするための一歩だと思っています。

これからの「おあしす」へ

——最後に、読者の皆さんへメッセージをお願いします。

私たちの Purpose（存在意義）は、「医療



理事長の横顔

愛用品や趣味、日常の様子もお伺いしました。

と福祉と介護の力で、誰もが『幸せだ』と思える世界を創造することです。これは職員だけでなく、患者さんやご家族、そして地域の皆さんも含めた「誰もが」です。

新しくなった「おあしす」は、私たちの日々の活動や想いを、これまで以上に丁寧に、そして双方向に近いかたちでお届けしていきたいと思っています。季節ごとにお届けするこの一冊が、地域の皆さんと私たちをつなぐ架け橋になれば、これほど嬉しいことはありません。これからの「おあしす」を、どうぞよろしく願っています。



東京マラソンに参加した様子

仕事中にいつも持っている物、愛用品を聞くと「メモ帳」と教えてくれました。ふとした瞬間に思いついたことを書き留めるため、いつも携帯しているそうです。座右の銘は「謙のみ福を受く」。謙虚な姿勢が幸せを招くという意味です。職員の声をもっとよく受け止め、対話を重ねる姿勢が印象的。休日にランニングで汗を流し、心身を整えることが習慣で、様々なマラソン大会にも参加しています。

知られざる

南山会の魅力

働く人も通う人もきっと好きになる

法人広報紙「おあしす」リニューアル後の記念すべき第一号に掲載する【南山会の魅力】は、病院になくてはならない大切な部署であり、患者さんが接することも非常に多い職種の所属する部署「看護部」です。今回は法人看護部門全体をまとめる看護グループマネージャー（以下、高嶋 GM）と、峡西病院各病棟のグループリーダーの皆さん（以下、奥水 GL、深澤 GL、河西 GL）、アルプス訪問看護ステーション所長（芦沢所長）に集まっていただき、対話形式でお話を伺いました。

看護部

GM、GLの皆さん



インタビュー参加者 左から

高嶋 GM、河西 GL（認知症治療病棟「リスタート病棟」）

芦沢所長（アルプス訪問看護ステーション）

深澤 GL（認知症治療病棟「クレル病棟」）

奥水 GL（急性期治療病棟「アスピール病棟」）

細田 GL
（外来）

塩沢 GL
（精神科療養病棟「ブリエ病棟」）

は天井が低く、保護室※には鉄格子があつて

聞き手 南山会や峡西病院の「昔と今」で、変化を感じる部分はありますか？

■ 変わりゆく精神科医療と、変わらない温かさ

だと実感しています。

河西 GL 本当にその通りで、私たちが笑顔でないと患者さまも笑顔になれません。マスクを外してニコッと挨拶するだけでも安心していただけますし、特に認知症の患者さまには表情でのコミュニケーションがとても大切だと実感しています。

聞き手 理事長もよく「働く職員自身が幸せでなければ、患者さまや利用者さまを幸せにすることはできない」とおっしゃっていますよね。

河西 GL 私はゴルフです。早朝5時からラウンドして、多い時は1日2ラウンドすること。でも、仕事から離れて頭をリセットする時間は大切ですね。

聞き手 ほぼ週1ペースですねーすごいエネルギーギッシュです。

高嶋 GM 私はライブですね！月2回は行っていて、来月は4本行く予定です（笑）。※

■ オンとオフの切り替えが、良い支援を生む

聞き手 まずはリラックスしてお話したただくために……皆さんは普段、どのように気分転換やストレス解消をされていますか？



全体的に薄暗い雰囲気でした。

聞き手 今の明るく開放的な病院からは想像が付きませんね。

河西GL 地域の方にはまだ昔のイメージを持たれている方もいるかもしれません。でも、入院されたご家族から「こんなに良くなるなら、もっと早く受診すればよかった」と言っていただけでも多いですよ。

奥水GL 「精神科」そのものへの抵抗感やイメージは、まだ世の中に残っていますよね。だからこそ、私たちの関わりや頑張りを通して、そのイメージを変えていけたらと思っています。

■笑顔に出会える瞬間が、私たちのエネルギー

聞き手 日々の業務の中で、やりがいを感じるのとはどんなときですか？

奥水GL 私は急性期治療病棟で働いていま

す。辛い状態で入院された患者さまが少しずつ回復していく過程を間近で見られるのが、何よりの喜びです。

深澤GL 私は認知症治療病棟ですが、患者さまの笑顔が見られた瞬間ですね。種類や個人差はありますが、認知症が進行しても笑顔は最後まで残ると言われています。その笑顔に出会えたときは本当にうれしいですし、スタッフのみんなも「もっと笑顔になってもらえるケアをしよう」と励みになっています。

■職種の垣根を超えて助け合える「南山会の風土」

聞き手 職場の雰囲気や、部署ならではの特徴を教えてください。

芦沢所長 訪問看護ステーションには看護師だけでなく、作業療法士など多様な専門職がいます。それぞれの視点を持ち寄り、チーム一丸で在宅生活をサポートする雰囲気があります。



聞き手 職種が異なると意見の衝突などはありませんか？

一同 それがないんですよ（笑）。

高嶋GM 昔から峡西病院には職種の垣根がないんです。看護師がソーシャルワーカーに制度のことを気軽に尋ねますし、他職種も患者さまの様子を看護師にオープンに聞いてくれる。当たり前すぎて理由が分からないほど、助け合う文化が根付いています。

芦沢所長 すぐ頼れる仲間がいるのは心強いんです。以前、心理検査について分からないことがあって心理士さんに相談したら、快く勉強会を開いてくれました。本当にありがたかったです。

■「されたいケア」を、これからもチームで考え続ける

聞き手 最後に、これから目指していきたい看護部像をお聞かせください。

高嶋GM 看護部の理念でもある「されたいケ



アを考えて実践する」をこれからも大切にしたいです。現場が忙しいときこそ一歩立ち止まり、「自分ならどんなケアをされたいか」「自分の大切な家族ならどう接するか」を考える。一人で抱え込まず、チーム全員で悩んで考え続けられる、そんな温かい看護部であり続けたいですね。

聞き手 忙しさの中でも相手を思いやる想像力を忘れない。南山会の強みがよく分かりました。皆さん、本日はありがとうございました！

（※1）2026年7月22日取材。

（※2）保護室：患者さまご自身や周りの安全を確保し、集中的な治療を行うための専用の病室。





南山会のイベントや新しい取り組み、地域活動、職員の活躍など、日々のニュースをお届けします。

「つながる未来フェス2026」開催！

【開催概要】

2026年
10月10日 **土**
10:00~14:30
(入場無料・予約不要)

場所：峡西病院（南アルプス市下宮地 421）
お問合せ：055-282-2151（工藤）

昨年に続き、今年も地域の皆さまとのつながりを育む交流イベント「つながる未来フェス2026」を開催します！10月10日の「世界メンタルヘルスデー」に合わせ、子どもから大人まで笑顔になれる体験や催しをたくさんご用意しました。

当日は、甲府南高校吹奏楽部の演奏やパーソナルジム「BROKON」インストラクターによるエクササイズ、大道芸パフォーマンスなど、様々な催しが会場を彩ります。また、院長の川崎医師による講演会や無料のメンタルヘルスチェックも実施。お子さま向けのお祭りゲーム射的・駄菓子すくい）やクラフト体験はすべて参加無料です！美味しいカレーやスイーツなどのグルメも並びます。

これまで当法人と接点がなかった方も大歓迎です。ご家族・ご友人と一緒に、楽しい一日を過ごしませんか？皆さまのお越しを心よりお待ちしております！

受賞作品発表！

南山会マスコット 決定！

来年の創立70周年という大きな節目に向け、当法人ではより多くの地域のみなさまや子どもたちに親しんでいただけるよう、6月1日～8月31日の期間でオリジナルの「ゆるキャラ」を公募いたしました。

県外からのご応募が非常に多く、北は群馬から南は長崎まで、郵送やインターネットを通じて全国から56件ものご応募をいただきました。当法人に直接のゆかりがないにもかかわらず、私たちのパーパスやミッション、各施設の取り組みを深く調べてデザインに落とし込んでくださった心温まる力作ばかりでした。

厳正なる審査の結果、ついに当法人の未来を彩る受賞作品が決定いたしました！

最優秀賞に輝いたキャラクターは、今後当法人の公式シンボルとして広報誌やイベントなど様々な場面で活躍していきます。なお、最優秀賞受賞作品の表彰式は、10月10日（土）開催の「つながる未来フェス2026」にて行います。当日はノベルティのプレゼントも予定しております。ぜひ会場へ足をお運びください。



「らいのすけ」
(ペンネーム：Risa. さん)



「ミナミくん」
(ペンネーム：加賀美 かる さん)

優秀賞
(2作品)

最優秀賞 「エガオー」 (ペンネーム：みか さん)

コンセプトは「幸せと笑顔を一緒に探る旅の相棒」
全ての人が笑顔になって欲しいという願いと、不安を「ガオー！」と吹き飛ばす力強さを掛け合わせて命名しました。エガオーは南アルプスの豊かな自然の中で生まれ幸せを見つけるために旅する恐竜です。背中のトサカは山梨の山々の四季を表現しました。空色のボディは南アルプスの澄み渡る空のイメージです。心が軽くなるような明るめの色にしました。赤い双眼鏡は小さな希望・幸せを患者様と見つけるための必須アイテム。スニーカーは焦らず、でも力強く自分の足で幸せに向かっていこう、というメッセージをこめました。



職員御用達！

ごはん探訪



第1回 うどん居酒屋まるや

新コーナー「職員御用達！ごはん探訪」、記念すべき第一回は、
峡西病院から徒歩3分ほどの距離にある「うどん居酒屋まるや」
(南アルプス市下宮地 540-7) にお邪魔しました。



うどんはお出汁が香り、心も体もホッカホカ



からあげは下味がしっかりついてビールが
飲みたくなるお味。



おしゃれなテラス席もあり、
ランチや飲み会にもぴったり

開業からおよそ30年。多くの職員がプ
ライベートで通う地元の名店です。昼は
うどんや定食、夜は居酒屋として営業し、
幅広い世代に親しまれています。取材時
にいただいた「からあげ定食」と「肉月
見うどん」は、どちらもボリュームがあ
り、大変美味しく、何度も通いたくなる
味わいでした。店舗の外にはおしゃれな
テラス席。店内には座敷も多く、小さな
お子様連れのご家族も安心してくつろげ
ます。気さくで優しい店主の人柄にも心
が温まりました。ぜひ一度、足を運んで
みてください。



座敷が多く、小さなお子様連れでも
安心の店内



夜の居酒屋メニューも味わって
みたくなりました

取材日：2026年7月31日 取材先：うどん居酒屋まるや（山梨県南アルプス市下宮地 540-7）
営業：平日 11:30～13:00 / 18:00～23:00 土日祝 18:00～23:00（定休日：火曜）

Treasure Box

トレジャー
ボックス

作品募集中！

あなたの作品を広報誌で紹介しませんか？

当法人の広報誌では、皆様が制作された素敵な作品（イラスト、絵画、手芸、写真、詩、短歌など）を募集中です！
どなたでもお気軽にご応募ください。

募集要項

応募対象 患者様、ご家族、地域住民の皆様、どなたでも大歓迎です。
※当法人に入院・通院中の方は、担当スタッフにご応募の際はお声掛けください。

掲載内容 紙面のスペースの都合上、「作品名」と「ペンネーム」での掲載となります。
文芸作品は文章をそのまま掲載し、立体・造形作品は写真を掲載します。

応募方法 メール（koho@nan-zan.or.jp）または郵送（宛先：〒400-0405 山梨県南アルプス市下宮地 421
特定医療法人南山会 広報担当）にて作品の写真を送りください。
※院内の方は、担当スタッフへ直接お渡しいただいても構いません。
※文芸作品の場合は紙媒体でも構いません。

応募にあたっての注意事項

- ※多くの応募が予想されるため、すべての作品の掲載をお約束するものではありません。掲載作品は法人広報部門にて選定させていただきます。
- ※紙面の都合上、お送りいただいたお写真の明るさ調整やトリミング（一部切り抜き）を行う場合がございます。
- ※お送りいただいた写真や作品は、原則としてご返却できません。
- ※他人の著作権（歌詞やキャラクターの無断使用など）や肖像権（他人の顔の写り込み）を侵害するもの、
明らかな個人情報が含まれる内容、暴力的・宗教的・営利目的の表現がある作品は掲載できません。

応募用紙は
こちら！



WEB・SNS



南山会
ホームページ

<https://www.nan-zan.or.jp/>



南山会 note

<https://note.com/nanzankai>



峡西病院
Facebook

<https://www.facebook.com/nanzankai/>

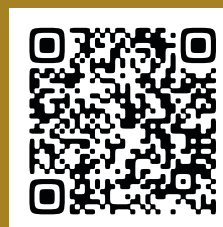


きがる館
Instagram

<https://www.instagram.com/kigarukan/>

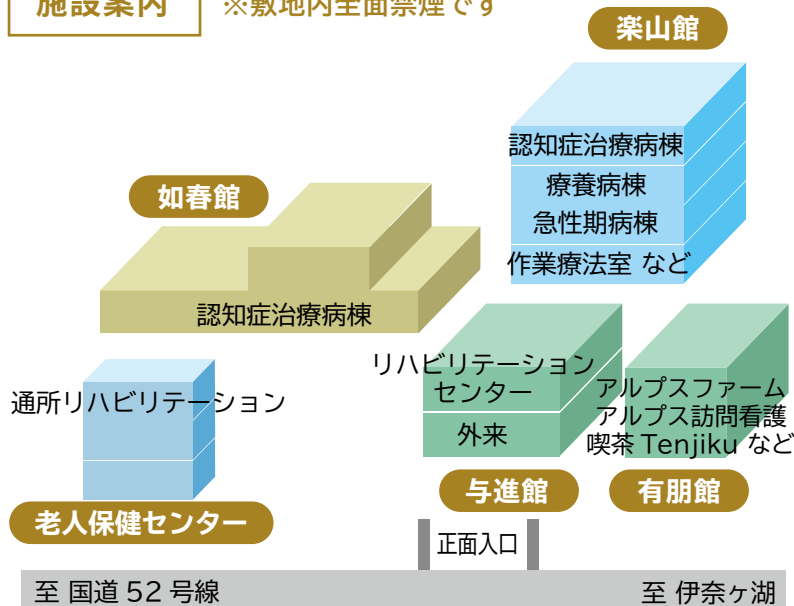
アンケートのご協力を お願いいたします

今号より「おあしす」がリニューアルしました。より良い広報誌を目指していくために、下記二次元コードからアンケートへの回答をお願いします。



施設案内

※敷地内全面禁煙です



交通案内

- JR 中央線
甲府駅より車で 40 分
- JR 身延線
東花輪駅より車で 15 分
- 中央高速
甲府昭和 IC より車で 30 分
- 中部横断道
南アルプス IC より車で 5 分
- 市営バス
南ルートすももライン
峡西病院前バス停より徒歩 0 分
- 山交バス
甲府 - (十五所経由) - 鯉沢営業所行き
小笠原下仲町バス停より徒歩 5 分



峡西病院の理念

その人らしさをともに創造する

人生の新しい目的や意味と一緒に考え、
よりよい人生を伴奏していく

特定医療法人 南山会 季刊おあしす 2026 秋 第468号 1987/9/5 創刊

〒400-0405 山梨県南アルプス市下宮地 421
TEL 055-282-2151 FAX 055-284-4886 URL <http://www.nan-zan.or.jp>

広報委員会

川口敦、清水悠司、三枝蒼、雨宮尚登、渡辺敏夫、岩瀬裕樹、内藤文子、飯窪厚裕、相川なつき